

巻 頭 言

お店に行かなくても PC やスマホで欲しい商品を注文すれば、翌日には手元に届く。そんな便利な世の中になり、それが当たり前と感じていたが、2020 年以降、手に入らないものや入りにくいものが増えてきた。手元に届くまでの歯車のどこかに不具合があると、他の歯車がいくら頑張ってもスムーズに動かないから大変である。不具合の原因は、人為的・非人為的に関わらず起こった不確実な出来事である。そういった出来事が起こったとしても、修理や技術だけで完全に復旧できるものは回復して元通りになるかもしれないが、文化・信条・風土が関わることはそう簡単にはいかない。回らなくなったというよりは無理して回していたのではないかと感じるものもいくつかある。急速に成長した後発医薬品市場を背景に相次いだ医薬品製造の不祥事もその一つと思われるが、ほかにも医療に関して急展開した（している）分野について注意が必要である。

現在、薬学教育の質改善を巡って議論が行われているところであるが、これも急速に薬学部の入学生定員が拡大した結果であり、薬学教育全体の質の低下が懸念される事態となっている。規制を変える視点は必要であったかもしれないが、社会の利益につながっていない。

コロナ禍で一層急展開している医療職の業務の効率化の議論についても、その業務の文化や風土を十分理解せずに仕組みを構築することには注意が必要ではないか。薬剤師業務の効率化については、薬剤師には薬剤師にしかできない業務に時間をかけてほしいと私も考えているが、非効率な部分を片っ端から削れば質が改善するかというと、そうとは思えない。機械やデジタル技術を適切に活用した効率化は恐らく問題ないが、調剤の外部委託や無資格者の労力を使うことによる効率化には、人や組織の歯車が増える点で注意が必要である。委託の仕組みは容易に作れるかもしれないが、異なる文化・風土を持つ人・組織が組み合わさって歯車を動かすことは意外に大変かもしれない。

人や組織の考えや習慣は容易には変わらず、かと言って既得権益を主張するだけでは国民の理解は得られない。変えないと国民の不利益になるのであれば何としても変えなければならない。しかし、医療人を育成する教育現場や、健康に関わる医療や介護の現場においては、非効率な部分が必要でもある。国民の不利益になるようなものがあれば削る必要があるが、そこに関わる職種が責任を果たすために大切にしていることまでは急いで効率化しなくてもよいのではないか。医療の質を改善するための効率化の推進であってほしい。

個人の考えを長々と書かせていただいたが、当学会の会員の皆様と医療の質改善に向けた議論ができる機会があることを願っている。

2022 年 5 月

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会評議員
帝京平成大学薬学部長・教授

亀 井 美 和 子